

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, Dec. 30th, 1955. No. 286.

關西大學學報

昭和30年12月 第286号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十年十二月三十日発行（毎月一回三十日発行）
通卷第二八六号



ポ ス タ ー

關西大學學報局

留学日記より

(一)

桜田 蒼

大学の図書館には読書する学生が充満していました。

前便が、余りにも非学問的冗長愚文にて、恐らくは緯度の関係であらう。暫く擱筆して頭を冷しては、との御托宜もあり、無沙汰を気にしつつも、さりとして神韻に背くわけにも参らず、今日に及びました。只今ではお蔭にて、とても元気にロンドンで勉強しております。

ねぐらはロンドン北西の高台に、勉学の根城はロンドン大学高等法学研究所附属の図書室に置き、主として英法体系の伝統を打破して、コモン・ローの思想の中から公法理論を摘出し、行政法の講義を設置した、W・A・ロブスン教授以下の論説に心を寄せています。留学も後半に入りますと、二十四時間が馬鹿に早くなります。日暮れて道遠く、然も霧のロンドンですから……。

安田教授も現在ロンドンに在つて、元気に御研究を続けておられます。斬新な学問を多分に吸収しておられる様に拝察致します。

二

緊急条令制定施行後始めての発動という、ストで緊迫したシンガポールで五日間、一部の大学生は、為に、検査されたりしていました。夏休真近のマレー

岩石と沙漠の街アデンは増々近代都市として延びてゆきます。岩を崩し岩を積んで作つてゆくピルの街並を見ては、住宅問題になやむ日本人として何かしら教えられるものがある様に思ひました。そして英國國権の背後にあつて、忍耐強く働いている労働者が、皆回教徒であるという点では、宗教的力の偉大さを感じました。(それは港で見ると仲仕人夫の働き振りを見ても、回教徒の働く港は目に見えて仕事は、はかどることによつても伺えました。)それでもさすがにアラビヤ沙漠に自動車を乗入れ一時間半にして到着した町では、文化とは程遠い、キヤラバンの群と不潔な臭と猥雑の雰囲気包まれた隘路が待受けているだけでした。

エジプトで会う大学生は若々しい独立の喜びと四千年の文化を誇つていました。カイロの博物館で知合つたカイロ大学の学生兄妹は最後まで私に附いて説明の労をいとみませんでした。假令、それが王侯貴族豪華の歴史にもせよ、芸術文化の粋を極めた悠大な遺跡には威圧をすら感じました。大英博物館や、ルーブル博物館を訪ねた人々は、エジプトには最早や遺物らしき影は無くなつているであろう、と感じるそうであり、事矣、私にそのことを告げ

た人も既に数人ありました。併し、私にとつては、それはカイロに収めたものの残りものでも拾い集めた程にしか感じられない。というのが実感です。其の規模の広大さは一寸表現に困るくらいです。

アレキサンドリアでは、計らずも警察の実体を見学する機会を得ました。カメラが取持つ縁であります。結局新しい国だけに、憲兵と警察との権勢競争の渦中に一寸足を入れた恰好でした。船の若い士官連中とドライヴして海岸線を撮影中起つたトラブルの二こま。

丁重な取扱いを幸い留置場の見学まで申込み大きな南京館のプラ下つた昔の牢獄さながらの所など一寸興味がありましたが入れてもらうわけにもゆかず退去を余儀なくさせられました。三十分位で彼等が陳謝してケリ。さて、この大学生諸君、期末試験が次週から始まるといつてノート片手に涼しい樹蔭で勉強していましたが、私共が古い教会をのぞきにゆくと、飛んできて、俺は英語が話せるから建物についてのガイドをやらせてくれという。アルバイトである。愉快な学生でありました。

三

シシリ島を左に、長靴の先に到達した時は、矢張り、ヨーロッパ文化の臭が、その靴の先から発散している様に感じたのも船の旅人だけが味わうことのできる感興ではなからうか、などと懣めつつ、ヴェスピアスの噴煙を速くに望みながらゼノアへ行きました。イタリー人は怠け者とは労働力輸入の問題で論じているイギリスやドイツでよく聞く言葉です。実際、人夫の仕事振りなど休憩や昼寝の時間の方が働いている時よりはるかに多い様に見えました。然し、ゼノアのドツクの素晴しさは、大阪、神戸の港など足もとにもよ

らないと思いました。悪い港湾条件を克服し、戦禍により根こそぎ破壊された施設を、後に見たマルセーユ、ハンブルグ、リバプール等よりも優れて立派に建造していると感じたのは私一人ではなかつた様です。政治的貧困という言葉も聞きますが、さすが大ローマを築いた国民の後裔、といったものが迫つて来ます。

フランスといえば、直ぐ華美な流行の先端をゆく人で充滿している様な先入感で以てマルセーユへ上陸して、一寸ガツカリしました。パリでもそうでしたが、人々は皆とても地味で、日本で見ると派手な色彩など殆んど見当りませんでした。ペレーのかむり方一つにしても、皆夫々に思い思いのかむり方を自分で表現しています。それが街の雰囲気と一致していて、あのガサガサしている政治的波乱とは似せて似つかぬ様な平静さを示しているのには考えさせられました。面白い国民があります。

フランス人の殺戮に血醒いニュースを送っている仏領モロッコ映画「地中海夫人」で観客をくいまでにからかつた時猟奇的迫力と夢の様な幻想的舞台を提供したジブラルタル海峡。又、最近百五十年記念祭典がネルソンの像の下で行われたが、そのトラファルガルの海の色に歴史の跡を偲びつゝドーバー海峡に入つた次第です。

五

船は私に、知らず知らずの間に、ヨーロッパに対して、客観の眼を与えてくれた様であります。テムズの流れも、タワー・ブリッジも、ウエストミンスターへ行つた時でも、最早や香港で感じた様な興奮も驚愕もなかつたのです。それが私にとつて幸か不幸か

は今直ちにいえないうでありましょう。又、その客観の眼がはたして正しかつたかどうかとも判りません。事実、最初に一ヶ月ロンドンに滞在して感じた多くは、或はイギリスに対する期待が大き過ぎたせいもありましょうか、私を失望させるのに役立つたに過ぎませんでした。勿論大国民としての実感に打たれたことも少なくはありませんでしたが、失望の感情がより大きかつた様です。私はB・B・Cからの日本向け放送に、その皮肉な感情をブチまけて北欧へ旅立つたのです。

それは、丁度、ストックホルム大学のニルス・ヘルリツ教授が旅行の出発を延ばして私を待つていてくれること、イギリスの各大学とも休暇に入つて学者達が皆連絡を絶つたことの原因によるものでありましたが、感覚的にその時期を得たわけでした。丸二ヶ月を、スエーデン、フィンランド、ノールエー、デンマーク、ドイツ、オランダ、ベルギー、フランス、アイerlandで過し、二度目にロンドンの土を跡み改めてイギリス人に接した時、又スコットランド、ノース・アイランド、とイギリス国内を旅行して来た。今度は前とは全く別の感覚でイギリスという国が眼に、耳に、皮膚に入つて来ました。

現在では、この前に、感心していたものが、実は皮相のものであり、一方眼に映せず、感覚に触れなかつたものが、知らぬ間に私を打つていたりします。或る時は陋習の固さに冷笑している私を見るかと思えば、又或る時は伝統と信念から生れる底力に魅せられている私を発見したりもします。

この様にして今、私はロンドンにいます。そして最初に書いた様に元気に学んでいます。又暇を見て空欄を埋めて参りましょう。

(十一月五日 ロンドンにて) (法学部教授)

(四頁より)
その伝説が、又史実と非常に近いものが多く、大話に類する、一度聞いただけでほら話であると分るものが非常に多い。これもこゝの特徴である。要するに、交通のはげしい場所だつた関係で、絶えずニュースが入つた為に、次々と古いものが忘れられ、材料は案外乏しいのではないかと心配している。それだけに採集が急がれる。

右の書中に川子(河童)の話があつたので珍しく思つて知夫の横山氏に聞くと、隠岐には、河童、狸、狐が居らず、話もほとんど伝つていないという事である。人間や鶯の爪の字にバチと仮名がつけられているので、これも横山氏に聞くと今では一般にツメと云うが、「爪でひつかく」という場合「バチをかける」と云う語が残つている相である。焼火の松浦氏もバチの語は老人なら或は知つているかも知れない。調べて置きましょうと云われた。(三味線のバチと比較)

右の横山氏は知夫の有名な郷土史家で、「隠岐の流人」の名著があり、藏書も多く、流人の話や、結婚の話、青年宿と、隠岐人気質等について面白い話をして下さつたのをノートに取つた。

「有難う」という時、西郷町では「ダン／＼有難う」と云う。出雲では単に「ダン／＼」とだけ云う場合もあると島大の山本助教に伺つた。ラジオの国語講座で島大助教廣戸停氏の話、岡山、広島、高知の各大学教授の放送によると、このダン／＼は、岡山、広島の間部落から、高知の僻地に迄及んでいる。

第五 民 謡

民謡ドツサリ節としげさ節のレコードを買つて来た。前者は松前追分風の緩やかなもの、後者は能登の出家さん節から出たものと西郷町の里見氏と言う。異説が少くない。なお調査を進めて見た。

(文学部教授)

隠岐の民俗

高橋盛孝

今回は末永調査団長の御骨折で、民俗班の外に、社会班の井上教授、歴史班の横田教授が新に参加され、いずれも民俗学にも専門家以上に造詣の深い方々だった為に、非常な恩恵を受けた。大体は、考古班と行を共にしたが、特に必要と認められた場合は、三人が考古班と分れて行動した。調査の大体は既に大毎紙上に末永、井上両教授の御発表があつたので、こゝには、単に私見のみを順序なく略記して今後の研究家の一助としたい。

第一、古記 録

横田教授から詳細な報告があると思うが、今次の調査の最大の收穫は古記録類の探査である。勿論民俗学の本旨が聞き込みによるべき事は万々承知しているが、信すべき記録の存否を調査する事、考古学の発掘、調査の結果を見聞する事も極めて重要な仕事である。慾を言え、更に、他の閩聯科学や自然科学方面の先生方迄も立会つて、指導して下さいるならば、完璧である。これは特に島大のスタッフに期待している。

高田神社の縁起は、足利代ものを、

徳川初期に雄渾な書風で記した卷子本四巻で、黒色装釘の縁起物二巻、赤色装釘の岡部神道風な神学に関するもの二巻、焼火神社、岡部氏邸其他で拝見した他の神社の縁起はいずれも後世の書写であるのに対し、これは、原本に極めて近い頃の書写であるから、これだけは何とかしてライカに収めて、両大学の専門家並に広く天下の識者の研究の資としたい。接写技術家の参加が望ましい。

検地帳は、釜の佐々木氏邸に徳川期の

ほとんど全部にわたる同時的記録が保存されている。これは恐らく学界でも未発表の資料で、是非写し取つて置きたい。

少壯の専門家が、数人かゝつて四、五日ばかり相である。近頃この種の記録が方々の大学、研究室等で、ぼつぼつ発表されつゝあるが、たとえ隠岐の中の更に一辺地とは云え、これ程叮嚀に保存されているのは驚異に値する。この外、黒木、海士の役所にも数十部、個人で所有されて居るものも少くない。これらは単に国史の方面ばかりでなく、経済学、政治学等にも関係する所が少くない。法学

部、経済学部の諸先生も是非御参加を懇願したい。これも出来れば初期のものだけでも、写真に取りたい。加茂の組合事務所で見た海上漁獲権に関する訴訟事件の記録も横田教授が一部写し取られたが是非、全部写して置きたい。

第二、民俗学関係の文書

民俗学関係の記録も少くない。中村の岡部氏邸には、先代及び当主の筆録された重要な記録が少くない。御客祭の記録は、重複箇所は省いて八分通り筆者が書き取つたが、席上互に取り交わす仁義の如きも一々方言で筆記してある貴重なものである。御客祭は島前知夫の横山氏のお話によると知夫には無い相であるが、大分ひろく隠岐に行われていたらしい当屋の制度の名残と思われる。

第三、船帳と舟霊

大山(古くは大山明)の元問屋モトドンヤに保存されている船客帳二部は、少くとも私は初めて見る珍しいもので、徳川中期から明治卅年頃にかけての入船の船印(帆に書いた)家紋等の畧画と、船頭の名、年月日、船籍等を記入した船宿の宿帳で、原本のまま保存されて居り、大体固分に記されて居り、各国の中間に白紙を多く残して居る。一国に関しては、年代順に書き込まれている。これで見ると、北海道、東北、佐渡、其の他日本海岸のみならず、馬関から九州、瀬戸内海を経て堺港に行

われていた訳である。主人はまだ船宿時代の事をよく記憶して居り、いろいろ話して呉れた。この辺の船の舟霊は、主な帆柱の根元に四角い空洞を作つて祀つたもので、中には何も入れない。(これは最も古い形式である。)新しいものでは、住吉、金比羅、焼火神社等のお札を入れたものもあると云う。焼火神社の寶物の中に舟霊様と名付ける徑二センチ位のねりもの玉がある。もとは金色だつたかと思う。これを美しく金をきせた寶珠型の金属容器に収め、表に記がすかし彫してある。掃途、松江城の天主閣を拝観した際、鎮めの玉と名付ける徑二十センチ位の玉が展観してあるのを見た。先年地下から鉦等と共に発掘されたものと云う。不思議にも右の舟霊と全く同一のねりものである。船の造建と、城の築造との際に同一形式の鎮めの玉を祀つたと云う事は、舟霊の起原をさぐる上に重要な手がかりとなる。(日本民俗学三ノ一、113頁参照)

第四 民話と方言

中村で横地満治、淺田芳朗両氏の集められた「隠岐島の昔話と方言」は、非常に面白く、岡部氏邸で、その大体を筆録した。二十一話が方言のまま筆記してある。幕末出生の十数名の老人の口から聞き取つたもので、今日これだけ集める事は、或は不可能ではあるまいか。これで見ると大部分は伝説で、童話の類は極めて少い。隠岐の伝承の特徴とも云い得

(二頁)

学内報

定例評議員会

学校法人関西大学寄附行為第十九条に基づき、定例評議員会は去る十一月二十四日(木)午後三時より天六学舎四十二教室において開催。

本大学年度上半期における事業報告が行われた。

出席者(イロハ順、敬称略)

- 中務平吉、榎本信雄、岩崎卯一、今西庄次郎、池田信之助、春原源太郎、西尾専太郎、西村治三郎、西本寛一、戸根泰雄、大月伸、大小島真二、大島武夫、勝野徳三郎、桂忠雄、神宅賀寿恵、神屋敷民蔵、寒川喜一、四辻諺、武田蔵之助、竹沢喜代治、内藤正剛、中谷敬寿、長柄金吾、村尾静明、宇佐美正祐、矢野文雄、矢口家治、保井剛一、松葉徳三郎、松原藤由、松尾高一、政井武、阿部甚吉、明石三郎、沢村栄治、木原繁実、木村健助、水谷撥一、富島綱男、三島律夫、白川朋吉、下条小野右衛門、平井三朗、久井忠雄、森川太郎、関豊馬、角田好太郎、園師親徳、佐伯三郎。

ロックフェラー財団より

堀教授に研究費補助

今般文学部堀正人教授(英文学専攻)に、米國ロックフェラー財団より左のテーマによる研究に対し向う三ヶ年間に一四三万円の研究補助費を交付されることになった。

研究テーマ

神秘主義に關聯した英米文学並びに東洋文学の比較的文学研究

井上和夫氏に

法学博士号授与

本校校友で現在高知地方裁判所裁判官である井上和夫氏は、かねて本学法学部に学位請求論文を提出していたが、この程教授会をパスし、本年十一月十五日付を以て法学博士号を授与された。

(論文題名)「長宗我部捷書の研究」

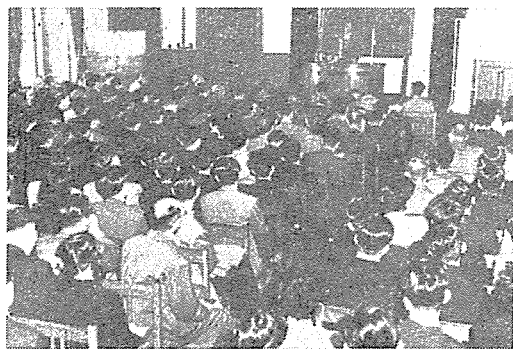
(略歴) 明治三十六年生、広島県、大正十四年本学専門部商科卒、市立高知商業教諭、中央水産五五参事、山陽高校教諭歴任、昭和二十四年より裁判官。

上道教授帰学

在外視察研究員として本年五月渡独した文学部上道直夫教授は、ドイツ諸大学を歴訪、研究の旅を終えて、十月十六日(日)大阪駅着で無事帰学した。

史学講演会

関西大学創立七十周年記念式典に際し、その協賛と史学科設立五周年を記念



史学講演会(毎日新聞社提供)

して、文学部史学科主催の史学講演会は、十一月五日午後一時半より大阪毎日新聞社講堂において開かれた。当日の講師及び演題は次の通りである。

人事異動

昭和三十年十一月一日附

専任講師 堀 堅士

本学助教授に任ずる。

昭和三十年十一月一日附

本庄 良邦

本学専任講師に任じ文学部勤務を命ずる。

昭和三十年十一月十七日附

谷沢 永一

本学助手に任じ文学部勤務を命ずる。

昭和三十年十一月十八日附

飯田 正一

任期満了につき大学院文学研究科幹事を解く。

昭和三十年十一月十九日附

飯田 正一

大学院文学研究科幹事を命ずる。

昭和三十年十一月二十五日附

山田松太郎

任期満了につき学部学生部長を解く。

昭和三十年十一月二十五日附

榎本金次郎

任期満了につき学部学生部長代理を解く。

昭和三十年十一月二十五日附

松原 藤由

任期満了につき学部学生部長代理を解く

昭和三十年十一月二十六日附

教授 山田松太郎
学部学生部長を命ずる。
昭和三十年十一月二十六日附

教授 明石 三郎
学部学生部長代理を命ずる。
昭和三十年十一月二十六日附

教授 植野 郁太
学部学生部長代理を命ずる。

学会出張

◇商学部沼田昭夫助手は十月十一日から十五日まで早稲田大学における日本交通学会に出席

◇文学部田中英三助手は十月十三日から十七日まで東京大学における日本宗教学会に出席

◇経済学部佐藤博助手は十月十四日から十七日まで立教大学における第十二回日本財政学会に出席

◇文学部飯田正一教授は十月二十一日から十一月七日まで広島大学及び東京大学における俳文学会総会、日本近世文学会に出席

◇商学部寺尾晃洋専任講師は十月二十五日から十一月十五日まで早稲田大学における公益事業学会に出席

◇文学部見次直雄教授は十月二十八日から三十一日まで南山大学における日本独文学会に出席

◇文学部魚澄徳五郎教授は十月二十八日から三十日まで広島大学における広島史学研究大会及び総会に出席

◇経済学部高本昇助手は十月三十一日から十一月三日まで東京大学及び都立産業会館における計量経済学会、理論経済学会に出席

◇文学部寛田知義助教授は十一月四日から七日まで日本大学における日本教育社会学会に出席

◇文学部金子又兵衛教授は十一月七日から十日まで東京大学における日本近世文学会に出席

学生就職中間報告

昨年の非常な不況下の就職戦も、関係各機関並に学生諸君の異常な努力と各方面の理解とにより、予期以上の成績を収めることができたが、本年の状況はどうであろうか？

今年、就職戦の火ぶたが切られるまでの関西各主要業界人事担当責任者の本年度採用見通しでは、各業界とも「デフレ政策による試験を一巡して一応の安定を見出したものの、業界によつては凸凹があり、また業界内の各企業はより一層優劣乗離による激烈な競争に迫り込まれ、雇用量増大より寧ろ機械化、能率化によつてこれを抑えようとする動向にあり」景気の

耕作影山

の一応の好転は事実としても、これを以て直ちに雇用量の増大を図ることはむづかしいとされている。

こんな状況下に、今年も例年通り十月一日から、就職戦が展開され、所謂一流どころの採用試験は一応終了したかたちである。ここでこの一ヶ月半に亘る本学の状況を概略報告する。

求人申込は昨年比べると好調で昨年の同期に比べ約二倍近くになっている。これを業種別に大別すると次の通りである。

業種	件数
金融	31
保険	16
証券	9
繊維	3
貿易、商事	39
鉱、工業	23
報道、出版	27
交通	6
化学、薬品	6
化粧品	6
食品	21
官公署	6
教育	7
その他	7
計	202

右二〇二件の中試験を終了し採否を決定した所は一二八社、試験は済んだが採用未決定の所が三六ヶ所、残り三八ヶ所が試験未済個所である。今年昨年に比べ求人申込先は相当増えていることは前述の通りであるが、各社毎の求人数は必ずしも昨年より増えていないむしろ減少している所が多いのが特徴である。

現在までの主なる採用決定会社を挙げると
 勧業銀行、神戸銀行、南都銀行、池田銀行、紀陽銀行、百十四銀行、兵庫相互銀行、七福相互銀行、滋賀相互銀行、大阪信用金庫、住友生命、千代田生命、明治生命、野村証券、ナショナル証券、一吉証券、東洋レィオン、日商、安宅産業、中村産業、木下商店、松下商店、大同洋紙店、喜多本店、大阪マツダ販売、丸嘉、六和、中山製鋼、久保田鉄

日本通運外十七社（十一月十五日現在）であり一社六名合格を筆頭に一社二名乃至三名という所が最も多い。女子学生の就職が現在迄に一名も決定していないのが聊か淋しい。女子の奮起を望む次第である。

いつもいわれていることであるが、求められる人物は「学力に秀で、健康で若さの溢れた迫力のある、明朗快活なこせせしない」学生であること。採用社側が一流であればある程詮衡の注文が厳しいのは当然である。しかし、このように三拍子揃った人物はそうザラにはあるものではない。

従つて逆の見方をすれば、応募者にとつての就職難は採用側にとつては求人難でもある訳である。特技がある場合を除き一流会社では、如何に縁故者と雖も、学力テスト（筆記）でその要求水準に達しない者は、就職は不可能に近いのが現状である。

工、丸善石油、早川電機、松下電器産業、関西ベイント、豊年製油、大阪酸素工業、イカリソール、中山太陽堂、聯合紙器、竹中工務店、松村組、柳組、

本学の場合、現在迄に直接公募に対し延一、一五〇名、縁故推薦を合せると延二、一〇〇名を推薦し、それだけの受験チャンスを提供しているが、今迄に一流所での失敗者の報告によれば、筆記試験に於ける特に語学の失敗が極めて多いことである。この事実を、やがては就職戦を迎えねばならぬ三年次以下の学生諸君に伝えると共に、自ら学力の蓄積に一段の努力を重ねられるよう願つてやまない次第である。

既に述べた通り、大企業よりの求人は目下一段落をつけ、就職戦の舞台は、いよいよこれから中小企業へ移行することになるが、多数の大学卒業生中大企業へ就職可能な者が極めて少数に限られる現状に於いては、必然にここでも激しい競争が行われるであろう。従つて、就職担当関係者は勿論全力を挙げて大学卒業者の進出にふさわしい職場の開拓に努力を傾注するつもりである。学生諸君も、また、今日、日本の中小企業問題の解決が「人に在る」時機に到達していると云う観方に立てば、学力、体力、気魄に富む優秀な諸君が自分も積極的に中小企業に進出し、これが向上と繁栄——ひいては、自己の勝利の獲得——のために、挺身されんことを希望するものである。

（就職課長心得）

学生懸賞募集論文入賞者発表

創立七十周年記念行事の一環として記念論文集を刊行するに鑑み、これとは別に全学学生一般より論文を募集し、兼ねて学生の研究成果発表の機会を与えようと企画し、去る五月その募集要項を学内に掲示すると共に本「学報」五月号と六月号とに連載して周知方を計つた結果、各学部より多数の応募者があつたことは本「学報」十月号に発表した通りである。

さて応募原稿については、記念論文集係にて各専門別に夫々担当し、審査採点の上持寄り去る十月十九日係委員会に諮り、左の通り入賞論文を決定した。

入賞者に対する記念品の贈呈式は、去る十一月十九日(主)午後四時半より、千里山大学ホール会議室で行われ、矢口、木村両教授などより各論文について講評があつた後、岩崎学長より各入賞者に榮ある記念品を授与した。

なお、特に優秀なと認むべき論文の見当らなかつたのは遺憾であります。入賞のものは何れも力作にして、学生の努力と学力の向上とは認めるに充分なものがあ

り、欣快に堪えません。

昭和三十年十一月四日
創立七十周年記念行事実行委員会
記念論文集係

二 等 賞

作品研究「ユリシイズ」
佳作

憲法上内閣総理大臣の権能

— 法律案の提出権ありや —
憲法裁判所と日本国憲法第八十一条の法理

取締役の行為の制約
詩と現代

存在論 (ユリシイズ) Heidegger
と Sartre 氏
Stendhal 及び Dostoevski Incise

— 殊に La Chartreuse de Parme について —

経済問題としての失業理論
価格調整公団に関する若干の考察

我国の労働人口の過剩性について
資本主義発達の経済史的考察

— 商業革命から産業革命までの一つの試論 —
会計理論における資本二重循環式の提唱

文三(一・英) 田中 米雄
法四(一部) 細海 好路
〃三 〃 北川 均
〃三 〃 川中 治
〃三 〃 笠原 宏也
文四(二部) 渡辺 幸博
〃三(一部) 梅垣 浩一
〃三(一部) 大森 裕和
〃四(一部) 上曾山 良樹
〃〃(一部) 工藤 五郎
〃三(二部) 稲川 勝美
商四(二部) 塩谷 俊造

作品研究「ユリシイズ」

文学部(一部)三年
田中 米雄

レヴィンスは「ユリシイズ」を評して、ジョイガ「美の神秘を量的創造の神秘におきかえた」ものだと述べている。

それ程「ユリシイズ」には無数の文体があり、又あらゆる種類の徹底した感覚描写がある。私は之を解放の意欲の表現とみた。

しかもジョイスはこのような歴大な混沌に「全一と調和と光輝」という芸術観をおしあてねばならなかつた。このこと、彼が宗教と故国と母を捨てねばならなかつたことが彼の解放の文学をいちぢるしくバセテイツクなものとしてゐる。

私は感覚をきつかけとしておこる種々の連想が「ユリシイズ」を織物にたとえるならば、その織物の細かい縞模様のよう、作品全体を秩序づけるのに用いられてゐる様をたどらうとした。そして次に、母子モチーフを中心に感覚描写の中に滲み出しているペイソスをたどらうとした。正直なところ、私には荷の重すぎ

る作品であり、難解な文章に出会つては悲しんだ。その私の悲哀が、作品全体に感じたペイソスを色づけたことは否定出来な

らな

憲法上内閣総理大臣の権能

— 法律案の提出権 —
法学部(一部)四年
細海 好路

内閣総理大臣の法上の権能の一つに憲法第七十二条があり、その第七十二条に於ける「議案」が如何なる意義範囲をもつ語句であるかが問題とされ学会に争われてゐる処である、法律の発案権については憲法に明確な規定を欠いてゐるため

に「議案」に法律案を含み、それを国会議員と内閣の双方にあるものと解する説、しかしこの点に關し、憲法第四十一条に立方権は国会にのみあると規定するをもつて法律案の提出権を認めない説、

しかも、内閣法第五条は違憲であるとさえ否定的に説いてゐるが、内閣にのみ提出権限を認めてゐる予算も国会において審議議決を要することを考え併せ、内閣に立法権限のないことを理由にその提出権を認めぬといふことは議院内閣制度上無理な見解であり、更に憲法改正案の提出権も認めるを可とするものである。

〔論議項目〕一、序。二、第七十二条に於ける「議案」の意義範囲。三、「議案」(第七十二条)と「国会」(第四十一条)の關係。四、法律と予算。五、「議案」(第七十二条)と憲法改正案」(第九十六条)の問題。六、むすび。

憲法裁判所と日本国憲法才八十一
条の法理

法学部(一部)三年
北川 均

〔憲法八十一条は、違憲審査権の所与性を示す唯一の根拠で大略二者に分説出来る。〕

(イ) 違憲審査権の帰属主体
小教説は、最高裁判所の専管と解釈し、通説は、司法型の其を理解し専管を否定する。

(ロ) 審査権行使の客体
抽象的審査権説と具体的審査権説の二者があり、効力論と関係し後説が通説である。

曰空白的憲法に基づく二側面

本条解釈を現行法制度上司法裁判所とすることは皮相的で、他方歴史的考察の結果憲法裁判所であると解することも遽に賛成出来ず、伝統的司法裁判所の中に企図する憲法裁判所の実を上げることが急務であると考え、前述主体、客体の問題には通説に従い、効力のそれは一般の効力説に賛同するものである。

取締役の行為の制約

法学部(一部)三年

川 中 治 作

取締役がその地位を利用して、私利をはかり会社の利益を害するのを防ぐ為、その行為を制約している。

競争禁止義務(二六四条)。これは総ての取締役にいえ、又株主總會の認許は事前たる事を要する。この違反行為は無効でなく、会社は取締役に責任をというるに

すぎない。

取締役会社間の取引の制限(二六五条)。これも総ての取締役に通じ、定型行為等はこれの行為に入らない。その他、種々の行為につき考察した。又取締役会の事後承認も有効である。

取締役の権限踰越の行為の禁止(二七二条)。この場合各行為を具体的に考えるべきである。

特別法上の制限。独占禁止法、証券取引法、その他に於て色々制限されている。

詩 と 現 代

法学部(一部)三年
笠 原 宏 也

我々日本人も第二次世界大戦を経験する事によつて西歐人の意味での第一次大戦を通過した。日本は近代の確立と同時に近代の克服を叫ばねばならぬ。今にも水爆が破裂する世の中で宥し合うには姦淫しかなく、確かめるには殺戮しかなし。君と僕とを結ぶ接続詞は喪失した。意味の共感する世界が無いのだ。人間が人間を放棄して機械の一歯輪に堕したのだ。空ろにきしむ機械の世界観。しかし人間の実存的境位に対して眼をつむるわけには行かない。人間が可能な極限まで人間となること。それには「肉」と「血」が必要なのだ。そして愛だ。だが何処にもないのが愛だ。三島由紀夫のどの頁に愛があると云うのだ。個人的表現としての愛から生の状態としての愛へ向うことだ。喉の如き巨大なる幻滅感。不滅の孤獨。

これを詩人は乗り越えるのだ。「あなたを死ぬまで愛します。」——嘘を吐け、風を喰え。

存在論について

—Heidegger & Sartre—
文学部(一部)四年 渡辺 幸博

Sartre は対自存在と即自存在を基礎づける。即自は対自の中で問題になる存在であり、対自の存在とは即自を虚無化する事である。即ちSartreの存在は、意識するものと、意識されるものとに因つて5%。Heidegger は意識を哲学の原領域としていないが、それはSartreが云つてゐる様に cogito を経なかつた事を意味しはしない。彼においては、存在了解を具へた Dasein が問題である。その解釈が存在者一般の存在の解明を可能にするからである。存在は、人間、神を含めた凡ゆる存在者の根拠である。存在は超越そのものである。この Dasein に相当するのは Sartre の対自であるが、前者は存在者であり、後者は存在とされている。然も対自より即自を優位に置いている。Heidegger は Dasein を存在に向つて解明し、本来の人間存在を確立せんとしている。その点 Sartre に比してより人間存在に重きを置いていると云へよう。

スタングダールに於ける挿入句
殊に「パルムの僧院」について
文学部(一部)三年
梅 垣 浩 一

今も尚、吾々にとつて大きな課題である。「近代的自我」を小説の分野に包括

し得た作品として、スタングダールの「赤と黒」「パルムの僧院」は余りにも有名です。然しこの試論では、文学的な面からより、むしろ文体の面から考察してみました。この小論は、I、挿入句とは何か。II、当時の文体との比較、III、挿入句の実例。IV、結論。の四つの部分から成つています。結びとしては、息の短い断絶するこの文体が、この作品の敘事詩性を強めるのに役立つのではないかと、と云いたかつたのですが、勿論、挿入句だけの考察では、その裏づけに不十分です。

経済問題としての失業理論

経済学部(一部)三年
大 森 裕 和

現代社会において最も深刻なる様相を呈している「失業問題」を経済的な面より観察したもので、その内容は一、失業の歴史的観察、二、失業の観念と存立形態、三、失業に関する三つの見解、四、結論としての失業対策等々から構成し、一においては失業の歴史的観察を、二においては「失業の定義」から季節的、景氣的、慢性的、潜在的失業の各々について述べ、又三においては古典学派、マルクス学派、近代経済学派の失業理論を検討しそれに対する私の見解、批判等を加え、最後の四において失業対策としての社会政策、或は「完全雇用」等の問題を簡単に述べたものである。

価格調整公団に関する若干の考察

経済学部(一部)四年 上曾山良樹

戦争経済は軍需生産第一主義に基き、我

国産業構造を重化学工業中心に変化せしめた戦後、戦争経済から平和経済への転換に当って不自然さは、我国経済を危機に導く事必然で有る。茲に戦後に於ても統制経済の存続が要請された。一方敗戦は我国経済の民主化を基本的課題として要請した。この経済の民主化と前述の経済の統制との二つの基本的課題を総合調整する新しい統制機関である。公団制度が各種統制令に代って生れた。

本公団もその一つとして生れ、物資の需給の極端な不均衡から来る価格のアンバランス、又同一企業に於ける資本の有機的構成操業度の相違から来る価格のアンバランスを調整し国民経済の必需品で消費者価格をなるべく低位に維持する必要があるもの。価格の調整を行うのを目的とする特殊な公団として生れたのである。

我国労働人口の過剰性について

経済学部(二部)四年 工藤五郎

我国の人口問題が大きな問題と認識されたのは久しいことではあるが、単に国土の狭少、天然資源の不足等自然的条件の観点から論ずることは出来ないであつて、むしろ国民経済規模と人口との動態相互の均衡関係に於て解明せねば問題の本質を見失ふものである。

ここで国民経済構造と人口依存就中労働人口の依存を見る時、我国の中進国資本主義としての諸特徴即ち第一次産業への依存度の大きなること、サービス部門が都市の過剰人口プールの役割を占めている

こと、中小企業の経営が不安定なるも依存度が大なること、これら労働人口の諸問題を人口扶養力との関連に於て見る時過去の諸政策及び諸制度に欠陥を見出しその相対的解決を、資本主義の全般的危機の第二段階におかれて居る我国の現状の中に解明しようとするのである。

資本主義発達の経済史的考察

商業革命より産業革命までの一つの試論

経済学部(二部)三年 稲川勝美

現代の社会は資本主義社会といわれている。商業革命に続く産業革命は我々人類の歴史に於て一大エポックを劃したのである。故に我々はそこに近代資本主義発達の意義を見出すのである。

資本主義発達の要件は一、販売市場の規模の広範固まる事、二、労働力が大量に存在する事、三、国民経済全体に大量の資本が蓄積されている事、四、工業技術の革新等である。イギリスはこれ等の条件を最も完全な型に於て整えて行つた。即ち、一、地理上の二大発見による広範な市場の獲得、二、エンクロージャー・ムーブメントによる労働者の発生、並にマニユファクチュアリー内に於て分業を行うことによる生産力の増大、三、貿易による国富の増進、四、産業革命と呼ばれる相次ぐ機械の発明等により典型的な形態に於て発達したのである。

会計理論による

資本二重循環式の提唱

前学部(二部)四年 塩谷俊造

企業経営に際して投下された資本は、先づ必要なる財に転化して期首貸借対照表の借方に記入される。そして資本額は同貸方に記載される。このことは同一の資本が二つの面に記入されたこととなる。そして一會計年度終了後の期末貸借対照表に於いては借方側、貸方側は期首にくらべて各々数値の増大、構成の変化を遂げている。これを企業本来の立場から見れば借方側は資本の能動的活動であり、貸方側は資本の受動的活動と考えるのが至当と思われる。この二つの活動の期末に於ける数値の差額をもつて期間損益が決定されるのであるが、このことを図式をもつて示せば次の如くなる。

この図式中、Pより前の部分の文字に期首貸借対照表の数値を記入し、Pより後の文字に期末貸借対照表の文字を記入すれば、その企業の一會計年度に於ける資本の流れが明らかになり、経営状態の概略を把握するのに至便である。

昭和三十年十二月三十日発行

關西大學學報 第二八六號

大阪府大淀区長柄中通二丁目一、二番地
久井忠雄

印刷所 株式会社 ナニワ印刷所
電話(35)七二七〇番

發行所 關西大學學報局

電話(堀川)一七五六番
振替大阪二六七二番

(12頁より)

十期会 総会

十期会(昭和九年学部卒)総会は、十二月三日(土)午後五時半より「双葉」に於て母校より久井専務理事を迎えて開催。十期会は千里山を巣立って二十年になるのを、これを記念して母校にテントを寄贈する計画が進められて来たが、この程完成したので贈呈し母校から感謝状がおくられた。次いで議事に入り、役員改選が行われたが、満場一致で矢野文雄会長の留任が決定。宴に入るや得意の「のど」に「うで」に時の経つのを忘れて飲を尽し、九時学歌斉唱で幕を閉じた。

母校側 久井専務理事

会員側 浅野野男、岩崎義雄、根本金次郎、江里口春志、秋野武男、加藤光次、河内兼三、北川喜八郎、左海伊和、高久直信、竹沢喜代治、野間秀泉、森行次、森下善雄、矢野文雄

双竜会 総会

昭和十四年専門部を卒業した人達の集う双竜会に於ては去る十一月三日千里山新学舎に於て、当日行われた校友総会の終了後、総会を開催。四国から土田久夫氏も参加し、極めて愉快な一日を過ごした。出席者 土田久夫、安達芳郎、今里達雄、坂部正武、弓場晴男、丸尾実、井上隆、坂本竜夫

甲子会 総会

甲子会(大正十三年専法卒)総会は、十二月七日午後六時から大阪市内「来山閣」で開催。七十年記念式典に参列した話題で賑わい母校の発展を心から祝福した

出席者

伊藤正雄、池谷龜太郎、片岡重治、加藤正次、金星武三、楠山秀太郎、桑原正男、杉本幾太郎、谷岡滋、久田一栄、広実都雄、深川実、矢野義一



軟式庭球部

軟式庭球東西六大学王座

決定戦に優勝

王座決定戦は二十五、六の二日間、東京日比谷公園コートで早大(関東)と関大(関西)との間に行われ、第一日5対2でリード、第二日5対3で取り本年度の軟式庭球の王座を獲得した。

両日の戦績は次の通りである。

11月25日	関大	5	1	2	早大
○松村・小川	5	1	1	市川・柴山	
○岡積・菊地	5	1	1	加藤・荒瀬	
○渡辺・中谷	5	1	3	菅原・有馬	
○表・宇野	5	1	3	今田・石井	
○清家・河野	5	1	0	清水・鹿島	
○末吉・島谷	1	1	5	木村・大川	
○高田・北尾	1	1	5	相原・岡村	
11月26日	関大	5	1	3	早大
○松村・小川	5	1	3	早大	
○渡辺・宇野	5	1	3	水石・大坪	
○岡積・菊地	2	1	5	相原・岡村	
○表・宇野	1	1	3	菅原・有馬	

ホッケー部全日学生選手権に初優勝

第四回全日学生ホッケー選手権大会は十一月十三、十四両日、西宮球技場で、準決勝、決勝戦が行われ、準決勝で予想どおり優勝、優勝候補の本学と明大が残り、優勝戦で連続優勝を遂げている関東の雄明大を破り遂に初優勝の栄冠を獲得した。

準決勝	関大	7	(3 1 0)	0	立教
明大	7	(4 1 1)	1	慶応	
決勝	関大	3	(2 1 0)	0	明大

サッカー部

関西学生サッカーリーグで全勝優勝

関西学生サッカーリーグ最終日は二十三日、西宮球技場で、行われたが、関大は神大に楽勝して五試合に全勝、二シーズンぶりに再び優勝の栄冠を獲得し、王座決定戦に出場する資格を獲得、来る十二月十一日関東の覇者早大とその覇を争うことになった。

関西学生サッカーリーグ成績次の通り。

一位	関大	5	勝	0	敗
二位	関学	4	勝	1	敗
三位	同大	2	勝	2	敗
四位	京学大	1	勝	2	敗
五位	神大	3	敗	2	分
六位	大経大	0	勝	4	分

野球部

全勝優勝の夢敗れ三位

今秋破竹の勢で全勝優勝の夢を實現して呉れるものと思っていたがリーグ最終

戦関、関二回戦を境にして、深刻な打撃不振に落ち込むでしまい、三校同率、優勝決定戦でも関学、立命に敗れ遂に三位に甘んじることになった。

レスリング部

第五回全日学生レスリング王座決定戦は十一月十五日青山レスリング会館で関東の覇者中大と関西の覇者である本学との間に行われたが、中大に敗れ王座を逸した。

戦績は次の通り。

フライ級	大 9.10	関大
○岩井	判 定	小中
○兼板	不戦勝	横山
バンナム級	○風間	岸本
○小宮	判 定	河竹
フエザー級	○中川	坂 本
○本橋	判 定	佐々木
ライト級	○兼子	丸 谷
ウエルター級	○池田	宇 賀

相撲部

全国学生相撲大会準決勝に進出!!

全国学生相撲大会で強豪としてその名を馳せていた本学は最近不振にあえいでいたが、漸次強化が効を奏し、関西選抜大会では二位となり、その頭角が表面に現われたが、十一月二十六、二十七日大阪府立体育館で行われた全国学生相撲選手権大会では個人戦で寿が四位に進出、団体でも優秀八校による決勝トーナメントに残り、準決勝には中大に敗れたが、早大を敗る殊勳を樹てたのは今年以降の活躍を大いに期待させる。

戦績次の通り。

11月26日	団体才一次予選	3	4	1	1	神戸商船
二回戦	関大	3	1	2	日 本	
三回戦	関大	3	1	2	慶 応	
一回戦	関大	3	3	1	慶 応	
二回戦	関大	3	1	2	近 畿	
三回戦	関大	3	1	2	近 畿	
一回戦	関大	3	4	1	早 大	
二回戦	関大	3	4	1	早 大	
三回戦	関大	3	4	1	早 大	
一回戦	関大	3	4	1	早 大	
二回戦	関大	3	4	1	早 大	
三回戦	関大	3	4	1	早 大	

御 詫 び

学報第二八四号附録芳名録中左記の方は過失により誤植及び記載漏れを致しました。ここに謹んで御詫び申し上げます。

七、事務職員の名

金巻万円也 天野宗一が正当
 追録・校友の部
 津田彦信

我が関西大学も七十年の齡を重ねて去る十一月四日には七十周年記念式典が盛大に執り行われた。この盛儀に列することの出来たことは私生涯の喜びであると共に感慨深いものであった。私が関西大学に入学し、そうして卒業したのは関西大学が半世紀を終ろうとする時期であった。関西大学に入学して見ると、これでも大学かと思われるほどの、かのお粗末な予科校舎と、住友から貰つた云う古色蒼然たる学部本館の外、稍近代的の建物らしい建物と云えば図書館と倭小ながらクラブハウス（現在の以文館）があつたに過ぎない當時を回想しながら今日の偉容に接するとき正に隔世の感無きを得ない。振返つて見る学園内の風物一樹一草に至るまで、どれもこれもが懐かしいものばかり、殊に恩師諸先生方についても種々と思出は尽きないのであるが諸先生方に関するものは他日に譲るとして、今回は私が入学当初感じた一寸としたことが動機となつて、私をして予科学部を通じて六ヶ年間の各休暇を無銭徒歩旅行に終始せしめた学生時代の思出を書いて見たいと思う。

先ず動機の第一は私が入学して見ると大阪を中心の都会育ちの学生が大部分で実に打算的で利己的で而も情弱な学生の多いことであつた。ひと飛びに登れる親和坂をシンドイシンドイと云つて遂には地獄坂の別名を奉つたり、僅かの距離でも歩こうとしない。実践力の乏しい口弁の徒の多いことには一驚した。これでは国家のためにも亦彼等将来のためにもよくない。これはどうしても都会の学生を綴つてやらねばならぬと痛感した。先ず

歩かせることだ。そして意思の鍛練を積まずことだ。それには先ず自分が実践窮の範を示し直接間接彼等を鍛えながら更に自覚を促して行こうと決心したのである。

第二の動機は関西大学と云うものが全国的に余りにも知られていないことを痛感したことである。私自身も偶然に入学したのであつて入学前には全然知らなかつた。元々東京に行く心算であつたがたままた大阪の親戚に立寄つたことが困をなし関西大学を母校とするに至つたのである。

入学した以上は関大を母校とすることになるので微力ながらも関大を全国の人々に知らしめるよう努力してみよう。現

学生時代を想う

平井三朗

在の自分出来ることは全国を歩き廻つて一人でも多く、また僻地の一角にも関大の存在を知らしめることである。然し自分の学資は自から稼がねばならぬ実情にあつたので汽車旅行と云うようなことは望むべくもなくまた価値もないのである。只持てるものは体力と意思力と年間春夏冬の休暇があるのみである。これらを有効に駆使して無銭徒歩旅行を実践することに決心したわけである。

先ず最初に東海道五十三次を京都三条大橋を振り出しに二週間で歩き、お江戸日本橋から銀座八丁を草鞋ばきで練り歩いたのも印象に深い。更に九州一周に四日間、四国一周に三十日間、琵琶湖一

周到六日間、大阪から天の橋立へ八日間、大阪から山陰を経て下関へ二十日間を費した。更に北海道一周に四十教日を費やしたが、北海道の旅も思出が多い、大雪山で熊に出会わして肝を潰したことも北海道でも実感が尠薄として浮ぶ。

北海道からの帰途青森から東京迄二十四日を要した。樺太のみは次の機会に譲ることにして以上で大体日本内地を終わつたので、今度は足を外地に向けることにした。先づ朝鮮八道を踏破した。小学校時代から夢にも憧憬れた鴨緑江の閉転橋を勿体振つて渡つた姿が今でもありありと眼前に浮ぶ。鴨緑江を渡ると満洲の地である、一路安奉線に沿つて日露戦争の武夫達の跡を引いっふ奉天に出て更に

北上長春、吉林、ハルピン、露支国境の満洲里に達すると早や五月も半となり釜山を出て七十教日が経過していた。ここから一路南下し無事大連に辿り着き百日に近い朝鮮満洲の旅を終わり、次に台湾一周に四十日間を費やしたが、まだ日本人で台湾を一周した者も、新高山を無銭で越して来た者もないとて大いに欲待されたことや、生れて初めて最敬礼を生番人にして貰つたことなど思出は尽きない。最後に内蒙古五十日の旅を以て私の学生時代は終わったのであるが、蒙古服を着けて蒙古王と握手したり、牛糞で焼く成吉思汗鍋の御馳走になつたり歸りにハ毛皮や馬等の土産を貰つたことなども

青春時代の思出として終世忘れ得ないものである。

以上で私が予科に入学した当初に決心し念願した無銭徒歩旅行の目標を、無一物で只頼るは意思力と二本の足とのみで達成し得たのであるが、振返つて見ると愉快なる青春の一駒でもある。私の無銭旅行に刺戟されて當時は随分無銭徒歩旅行が盛んに行われた。体験した人々は各人相応に得る処があり、今日でも私に感謝する人がある位でその人生にプラスしたことは事実であろう。私は旅行中各地の新聞社は殆ど訪問し、また紀行文を寄せたりして大阪には関西大学があると云うことを大いに知らしめて来たたと自負している。

往時を思いながら現在の学生を見てみると私が入学当時情弱と思つた学生よりもつと以下の者が多い。第一氣力に乏しく迫力が無い。日頃の精進の度が低く、各種の試合に於ても粘りと頑張りとは足りず後半に至つても弱いことお話しならぬ。言うことやること枝葉末節に走つて大本を忘れてゐるの感が強い。近頃の関大生は溫和しくなつたと云う声を聞くが、その半面氣魄の足らぬことを、またいざと云うときに物の役に立たぬ、採用しても将来伸びないと云われていることを感知せねばならぬ。この事は今後大いに關心すべき事柄であると思う。関大の学生がこまま進んだならば将来世の指導層に於て活躍するものは雨夜の星の如く、たとえ年々歳々数千人の卒業生を出してゆくとしても人物らしい人物は見当らなくなるのではあるまいか。

(二部教務課長)



校 友

福岡支部総会

秋將に天高く馬肥ゆるの好季十月十六日、午後一時より大学側より岩崎学長を迎え、市内住吉向島南風楼に於て総会を開催。遠くは築後、豊前より来会するものもあり、母校の近況を聞き今更乍らその発展振りに今昔の感を抱き今後の発展を祈りながら散会した。

千里山昭八会

十月二十日(土)午後六時より平野町「やを政」に於て第三十六回例会を開催。当日は生憎くと二十六号台風のために出席が鈍ぶり事実被害を受けた会員もあつて出席者は僅少となつて了つたが已を得ない。幹事より種々の報告があり、次で来る十一月三日は母校七十周年を記念する全国校友総会が、新装成つた千里山第一学舎に於て開催されるので、この機会にも例会を開き、一人でも多くの会員を出席せしめるよう、お互い努力することを申合せて例の如く小宴に入つた。話はそれからそれへと尽きそうになつたが、十時のみおつくしの鐘の音をしておに学歌を高唱して散会。

当日の出席者
美吉克之祐、木下忠夫、中家利国、藤岡勇、結城丙太、大島武夫、中江翼、賀本敏英、北村文之助、浦野健二郎、平井三朗

千里山昭八会

十一月三日午前十一時千里山第一学舎第二〇五教室に於て第三十七回例会を開催。当日は母校関西大学七十周年記念の全国校友総会が新装の第一学舎新講堂に於て開催されるので校友は全国から押寄せた。吾が昭八会の面々も三々伍々として集り来つて、二十数年振りの再会を光頭薄

毛を少々気にしながらも固い握手を交わしている姿には禁じ得ない喜びが溢れていた。出席者には新顔もあり、幹事より概括的の報告をなし、寄附金に対する協力をも更にお願して昭八会に対する協力を希望を述べ合つて、午後一時からの校友総会に一同打揃つて出席した。総会を終わる、中庭に設けられた祝宴場にも一同席を連ねて座し、母校七十年の歴史を回顧すると共に今日の基礎を築いた先人当路の方々を敬意を表し、隆々伸び行く母校関西大学の前途を心から祝福していた。誰かのボロボロ校舎を鼻立つてから二十数年振りに訪ずれた者には眼前この偉容に接し全く驚きの声を発し、今昔の感に堪えぬ様子であつた。宴果て、後一同学園内を散策し、昭八会も午後四時散会した。

大阪国税局秀麗会総会

大阪国税局秀麗会は十二月十日(土)午後二時から天六学舎新館教室に於て、母校から久井専務理事、矢野常務監事、長柄校友会副会長、安井校友課長の出席を得て、前局長塩見俊二氏を囲んで開催。吉田会長の挨拶に続いて、久井専務、矢野常務、安井課長から種々母校の近況、将来の構想、校友会の現状等の報告あり一同感動深く聞き、宴に入るや、平素の多忙を打ち忘れ、心ゆく迄歌を尽し、午後六時学歌斉唱を以て幕を閉じた。

守口支部総会

守口支部総会は忘年会を兼ねて十二月十一日(日)午後五時より守口市内「てるよし」料亭で開催。本多支部長の挨拶の後、母校より臨席の矢野常務監事より、

母校の近況報告あり、宴に入つた。夜の更けるに従つて学生歌、応援歌と次々になつかしい母校の歌が飛び出し、かくし芸に腹をかゝえた。

大阪府庁秀麗会総会

十一月十九日(土)午後一時半より秋の行楽にぎあう大阪城のほとり大手前会館に於て、大阪府庁秀麗会第二回総会を校友実名に二百余名を迎え開催。

吉田幹事長、今井支部長の挨拶に始まり白川理事長、岩崎学長、安井校友課長の母校近況報告に一同

耳を傾けその発展に意を強くした。役員改選の後一和気あいあい裡に入り小宴に



大阪府庁秀麗会

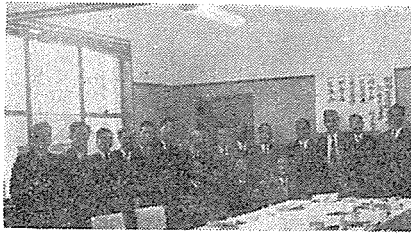
各部代表幹事 藤田全夫、山本清之助、大川大三、恒雄、福田一夫、吉原新太郎、武田昭三、三好恒雄、竹村盛一、山本博通、飯島昭、堀江貞勝、片山良一、田中清、大浦晋雄、中川賢一、原良人、奥川武郎、原秋寿
会 計 山本弘吉
監 事 福中定三郎、安川勝太郎

春秋会 総会

春秋会(昭和十四年学齢卒)は十一月二十六日(土)午後五時半より、南の「花月別館」に於て開催。母校から矢野常務監事出席、母校の現況、将来の構想等を聞き、七十周年の祝賀を兼ねた総会を有意義の裡に九時閉会した。

泉佐野支部(旧泉南支部)総会

十一月二十六日(土)午後三時より、泉佐野商工会議所に於て開催。役員改選が行われたが、支部長、松浪庄造(昭八)二法、泉佐野市議員、計理士、親睦士)副支部長、入江勇(昭五、六経、泉佐野商工会議所専務理事)同、藤田春雄(昭九、昭二経、南海電鉄KK)の三氏留任が決定。又名称も従来の泉南支部を、わかり易い泉佐野支部と変更した。議事終了後、本市在住の母校中義勝助教、北村貝塚支部長の挨拶などあり、和気あいあいの内に閉会。(9頁に続く)



泉佐野支部総会

当日決定の役員は次の通り
支部長 栗川喜一
副支部長 西野健次、田中 功
幹事 柳沢重範、久松麗治、今井憲夫、井上敏雄、大川三三、寺田伴樹、三好一夫、橋義雄、増田一雄、磯村八郎、中井保、池尻忠夫、中西隆雄、山本茂、鳥丸忠志、頼戸勇、辻本豊七

謝 辞

去る昭和二十八年十一月より關西大學創立七十周年記念
 拡充資金募集に付御寄附を御願申上げました処、各位には
 其の趣旨に深き御理解を御示し戴き、御蔭を以て所期の拡
 充計画がとどこほりなく完成致しました、此処に謹んで御
 礼申上げます。

尚本事業完成に就ては(自昭和二十二年十月
 至昭和二十三年六月)の間に募集致
 しました關西大學擴張及び校友会館建設資金の御寄附者並
 びに昭和二十五年十一月以来、本大學拡充資金の寄附保除
 に御契約下さいました各位の御力に負ふ所も大なるものが
 あるのでありまして改めて深甚の謝意を表する次第であり
 ます。

御援助により完成されました拡充五ヶ年計画完成表を下
 の通り御高覧に供しますと共に、併せて今後の学園発展に
 も倍旧の御協力を賜りますようお願いに御願申上げます。
 追而 御寄附は本年度末まで引続き拝受致しております。

昭和三十年十一月四日

關西大學 学長 岩崎 卯一
 關西大學 理事 白川 朋吉

關西大學拡充五ヶ年計画完成表 (昭和三十年十月現在)

建 物 名 称	起工		完成		建 坪	延 坪	構 造
	昭和 年月	昭和 年月	昭和 年月	昭和 年月			
大學ホール並に研究室新築	二六・四	二七・四	二六・四	二七・四	二四・〇	四四・〇	鉄筋コンクリート造 瓦葺二階建
第一学舎第一期新築工事	二六・八	二七・四	二六・八	二七・四	一六・〇	四七・六	三階建
第二学舎第一期新築工事	二六・三	二九・九	二六・三	二九・九	四三・三	一、三七・〇	鉄骨鉄筋コンクリート造 三階建、一部四階
第三学舎第一期新築工事	二六・三	三〇・〇	二六・三	三〇・〇	六六・五	一、〇九・六	二階建、一部中二階
圖書館増築工事	二六・三	三〇・〇	二六・三	三〇・〇	一五・九	五八・七	三階建書庫六階建
第二学舎第一期増築工事	二七・三	二九・三	二七・三	二九・三	二六・三	三六・六	二階建
第一高等学校校舎新築工事	二六・五	二六・二	二六・五	二六・二	三三・五	七五・〇	三階建瓦葺
講堂	二六・三	三〇・三	二六・三	三〇・三	二六・八	四九・八	鉄骨造平屋建瓦葺
理科教室	二六・三	三〇・九	二六・三	三〇・九	四〇・〇	四〇・〇	木造瓦葺平家建
附属食堂	二六・二	二九・一	二六・二	二九・一	一六・〇	一六・〇	木造二階建瓦葺
尚志館第一期増築	二六・六	二六・八	二六・六	二六・八	一三・四	一五・四	木造二階建瓦葺
第二期	二六・八	二六・八	二六・八	二六・八	一三・四	一三・四	木造瓦葺二階建
西研究室改造工事	二六・五	二六・二	二六・五	二六・二	一五・五	一八・五	木造瓦葺二階建
秀麗寮第一期工事	二六・二	二六・三	二六・二	二六・三	一八・〇	一八・〇	平屋建
第二期	二六・三	二六・九	二六・三	二六・九	一五・五	一五・五	平屋建
第三期	二六・四	二六・九	二六・四	二六・九	一三・〇	一三・〇	木造瓦葺二階建
幼稚園々舎増改築	二六・三	二六・六	二六・三	二六・六	一〇・〇	一〇・〇	木造瓦葺平屋建
天六学舎増築工事	二六・四	二六・九	二六・四	二六・九	七・六	三七・六	鉄筋コンクリート造 地上四階、地下一階建
合 計	二、六五・四	六、三九・三	二、六五・四	六、三九・三	二、二五・〇	二、二〇〇・〇	芝張り植樹、開墾樹木移植
千里山学舎学内道路舗装					九三・〇	九三・〇	通路アスファルト
植林					七〇・〇	七〇・〇	建物前部コンクリート
造園					五〇・〇	五〇・〇	桜百本、紅葉三十本

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
 昭和三十年十二月三十日発行(毎月一回三十日発行)

關西大學學報 才二八六号 十二月号